

学校法人城西大学 国際學術文化振興センター

# JOSAI INTERNATIONAL CENTER

for the Promotion of Art and Science  
(JICPAS)

学校法人城西大学

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-26

☎ 03-6238-1300

http://www.josai.jp/

## Newsletter

Josai University Educational Corporation  
3-26 Kioi-cho, Chiyoda-ku, Tokyo ☎ 03-6238-1300 http://www.josai.jp/

No.14



会見する水田理事長とマレーシア政府観光大臣

2011年11月25日、マレーシア政府観光大臣・イエン・イエン氏が東京紀尾井町キャンパスに来学し、水田理事長と会見しました。

会見の中で、水田理事長は「本学は観光学部や薬学部を有しており、この方面を中心に今後マレーシアの大学と交流を深めていきたい」と述べ、イエン・イエン大臣も「観



### マレーシア政府観光大臣来学

日時…2011年11月25日  
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

### 国際交流活動

光産業強化のためにも人材育成が重要であり、ぜひ日本の大学との交流を深めたい」と述べました。

本学は、マレーシアではマネジメント&サイエンス大学と学術交流協定を結んでいます。今回の観光大臣の来学を機に、今後のマレーシアの大学との交流がより活発に進むことが期待されます。

会見後、大臣は城西大学経済学部留学中のマレーシアからの学生および城西国際大学観光学部留学している中国、ハンガリーからの留学生代表計10名と交流の場を持ち、留学生活の様子などを尋ねられるとともに、マレーシアの観光産業の状況を説明され、ぜひ日本でしっかり学んで帰ってきて欲しいと留

### ポーランド共和国大使来学

日時…2012年2月16日  
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス



2012年2月16日、ポーランド共和国大使ヤドヴィガ・マリア・ロドヴィッチ閣下が学校法人城西大学の東京紀尾井町キャンパスに来学し、水田理事長と会見しました。

本学は、中期目標でグローバル人材の育成

に向けた国際交流活動強化を掲げて、特にハンガリーやポーランドなどの中央ヨーロッパの国々との学術交流を積極的に深めており、今回の来学はその一環として実現したものです。



中国、ハンガリー、マレーシアからの留学生との交流

学生を激励しました。

また、大臣は同日夕方開催された大学院センター開設記念講演会の懇親会にもゲストとして出席されました。



あいさつされるポーランド大使

会見の中で、水田理事長は「ポーランドとの交流を深めるなかで、大使にはさまざまなアドバイスをいただけてきました。ポーランドは中央ヨーロッパでは最大の国で、日本の研究も大変盛んであり、今後も両国の関係が深まって大学間の交流が強化できることを期待しています」と述べました。

また大使も「ポーランドは日本に対して非常に親近感を有しており、今後城西大学との交流を核にしてポーランドと日本の交流をさらに深めていきたい」と話されました。

会見後、地下ホールにて大使から城西大学、城西国際大学の学生に向け「日本とポーランドの国交について」と題した講演をしていただき、ポーランドの変遷の歴史や民主化の歩み、文化、そして近年の日本との戦略的パートナーシップ構築など、さまざまな角度からポーランドと日本の関係についてお話を



講演するヴァルデマル・チェホフスキ監督

いただきました。

また、今回大使と一緒に来学された、大使の夫君であり、ポーランドで著名なドキュメンタリー映画監督のヴァルデマル・チェホフスキ氏より「ポーランドにおけるE-Movieについて」という近年のポーランドにおけるメディアの変遷、役割についても講演いただきました。出席した学生たちは、熱心に大使と監督の講演に耳を傾けていました。

なお、講演には外務省から小寺次郎欧州局長もご出席され、「欧州でもポーランド、ハンガリー、スロバキア、チェコの『ヴィシエグランド4カ国(V4)』は今後日本にとって重要な国であり、城西大学がこれらの国々との交流強化を目指していることに対し、外務省としてもしっかりとサポートしていきたい」と力強いお言葉をいただきました。

そしてその後に行われたレセプションで

水田宗子理事長をはじめとする学校法人城西大学代表団は、2011年12月19日に台湾の淡江大学で開催された「第1回 台日学長



日時…2011年12月19日  
場所…淡江大学、台湾

## 台湾政府主催 第1回 台日学長フォーラム出席

フォーラム」に出席し、セッションにおいて水田理事長が講演しました。本フォーラムは、台湾と日本の大学の国際



あいさつされる小寺欧州局長

は、出席者の方々が大使や監督らと和やかに歓談し、両国の交流と理解を深めました。

2009年が日本・ポーランド国交樹立90周年という節目の年だったこともあり、特に近年日本でのポーランドの歴史・文化・学術に関する関心が高まっています。本学でも、日本に大変馴染みの深いポーランドの偉人であ



両大学の学生と歓談する大使

あるキュリー夫人のパネル展開催などを検討しています。

本学は、ポーランドとは2011年9月にポーランド情報工科大学と学術交流協定を結んでいます。今回の大使の来学を機に、今後のポーランドの大学との交流がより活発に進むことが期待されます。





フォーラムの様子



セッションで講演する水田理事長



フォーラム出席者による記念撮影

連携強化を図ることにより、両国の大学生に新しい学びの機会を提供することを目的として台湾教育部国際文教局の主催で開催されたものです。第1回の今回は、台湾からは会場となった淡江大学をはじめ、国立雲林科技大学や世新大学等約60もの国立・私立大学の関係者や教育部関係者等が参加し、日本からは本学や同志社大学、亜細亜大学、桜美林大学等9大学と日本国際教育交流協議会、日本私立大学協会関係者等が特別招待を受けて出席しました。

フォーラムでは、「大学の発展と学校経営」「国際連携と留学生の受け入れ」「大学の発展と産学連携」の3つのテーマに沿ってセッションが行われ、本学はセッション1「大学の発展と学校経営」の中で、水田理事長が「国際人材の育成と国際的連携教育、研究



表彰状の授与

2011年10月13日、水田宗子ハンガリー奨学生表彰式が東京紀尾井町キャンパスで行われました。コルピナス大学、ブダペスト商科大学、セント・イシュトバン大学、エトヴェシュ・ロランド大学、カローリ・ガシユパール・カルビン派大学の奨学生 計11人に水田理事長が表彰状を授与し「この奨学金は創立されて2年目であり、昨年の第一回の奨学生の中には日本の企業に就職する方もいるなど、皆さんの活躍が期待されます。今回の奨学生の皆さんも、充実した留学生活を送るためにも、日本の社会に解け込んで欲しい。そして日本から世界を見る、もうひとつの目を養うよう努力して欲しい」とあいさつしました。

引き続き「城西・ハンガリー学生親善交流大使」の任命も行われ、前大使をつとめたティモール・シャンドルさんより、新大使となる城西国際大学のオラー・ニコレッタさんと城西大学のレレカーチ・タマーシユ・ジョルトさんに大使のたすきが引き継がれました。



## 水田宗子ハンガリー奨学生表彰式

日時..2011年10月13日

場所..学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

の重要性」というタイトルで講演を行いました。

講演では、グローバル化が急速に進む中、今後は国際的な視野を持った人材育成が必須であり、そのためにも日本と台湾がさらに連携して、国際的なリーダーシップがとれ信頼される人格の形成と、国際的な教養と異文化理解、コミュニケーション力の育成に努めることの重要性を述べました。

今回のフォーラムでは、両国出席者による現状の理解に始まり、今後の留学生の送り出し・受け入れやコンソーシアム、共同研究の可能性など、今後の両国の教育連携強化につながるさまざまなテーマに沿って活発な議論がなされました。

なお、今回のフォーラムは日本での開催の可能性もあり、今後のより充実した活動が期待されます。



奨学生代表のあいさつ

奨学生を代表して、サボー・シンティア・ジュジャンナさん（城西国際大学国際人文学部）が「高校生からの念願だった日本への留学が実現できて大変うれしい。日本語を学ぶ学生にとって、水田奨学金は絶好のチャンスであり、東日本大震災の大きな被害にもかかわらず奨学金制度を維持していただき、本当に感謝しています」と日本語で謝辞を述べました。続いて、同じく奨学生代表のパーリアント・アンナ・エルセベトさんより「今年から大学院生となり、現在日本とEUについて研究しています。これからも、ハンガリーと日本の友好を深められるよう精一杯努力します」との挨拶がありました。

※水田宗子ハンガリー奨学金は、2009年12月ハンガリー共和国大統領であるシヨーク

●2011年度水田宗子ハンガリー奨学生表彰者

城西国際大学 4名	コルピナス大学 1名	グベク・エメシェン：Gubek Emese
	エトヴェシュ・ロラード大学 2名	ケレケシュ・ジュジャさん：Kerekes Zsuzsa パロッグ・アーコシュ・ファルカシュさん：Balogh Ákos Farkas
	ブダペスト商科大学 1名	レレカーチ・タマーシュ・ジョルトさん：Lelekács Tamás Zsolt
城西国際大学 7名	ブダペスト商科大学 2名	サボー・シンティア・ジュジャンナさん：Szabó Cintia Zsuzsanna トゥリ・ジョーフィアさん：Turi Zsófia
	セント・イシュトバン大学 1名	セーケイ・ヴェロニカ・チッラさん：Szőkely Veronika Csilla
	カーロリ・ガシュパール・カルピン派大学 1名	ゴンバシ・ノエミ・ジョーフィアさん：Gombás Noémi Zsófia
	エトヴェシュ・ロラード大学 3名	オラー・ニコレッタさん：Oláh Nikoletta ヒドヴェーギ・ジョーフィアさん：Hidvégi Zsófia パーリアント・アンナ・エルセベトさん：Balint Anna Erzsebet

ム・ラースロー大統領閣下（当時）が、東京紀尾井町キャンパスを表敬訪問されたことを記念して設立された奨学金制度で、ハンガリーと日本の懸け橋となる人材育成を目的に、ハンガリー学生の留学費用を助成するものです。



セルダハイ大使のごあいさつ

2011年10月13日、ハンガリー大使館にて、本学のハンガリー留学生の歓迎会が開かれました。これは、城西国際大学、城西国際大学へハンガリーから「水田宗子ハンガリー奨学金」による学生が入学してきたことをうけ、昨年に引き続きハンガリー大使館が開催してくださったものです。

今年の歓迎会には、城西国際大学から5名、城西国際大学から13名のハンガリー留学生と、両大学からハンガリーに留学経験のある日本人学生および、ハンガリー語を学習している学生合計9名を加えた総勢27名の学生が招待されました。大使館からは、このたび新た

国際交流活動

## ハンガリー大使館主催 城西国際大学ハンガリー留学生歓迎会

日時：2011年10月13日  
場所：駐日ハンガリー共和国大使館



奨学生代表のあいさつ

に就任されたセルダハイ・イシュトバーン特命全権大使、ゲレエシユ・イシュトバーン公使、カールマン・アンドレア二等書記官等、多くの大使館関係者が参加され、ハンガリー料理が振舞われる中で交流しました。

セルダハイ新大使は、学生時代日本に留学の経験があり、帰国後エトヴェシュ・ロラード大学で日本学科長も務められた、ハンガリーにおける日本学の草分け的存在として知られています。そのため、城西へ留学してきた学生たちの中にも多くの教え子がいました。大使はごあいさつの中で「私も若い時に、皆さんと同じように日本に留学して、大



変貴重な経験をしました。そして、いつの日かハンガリーから多くの学生が日本の大学に留学してさまざまなことを学び、それを活かして広い分野で活躍するようになることが、私の夢でした。今日、両大学に留学している多くの学生を目の当たりにして、まさに私が夢見ていたことが実現した思いです」と感慨深げにおっしゃっていました。また、水田宗子理事長からは「大学教授でもあられたセルダハイ大使のご就任を心よりお祝い申し上げます。本日はこのように素晴らしい歓迎会を開催してください、誠にありがとうございました。一年一年、学生たちが成長し、日本とハンガリーとの交流が深まっていることを嬉しく思います」とのあいさつがありました。

その後、新入学生の紹介と「城西・ハンガリー学生親善交流大使」の2名が学生代表としてのあいさつの後、和やかな雰囲気の中で交流会が始まりました。また会の中で、奨学生の一人で、セルダハイ大使の教え子でもある城西国際大学大学院のバーリアント・アンナ・エルセベトさん（エトヴェシユ・ローランド大学）が、ハンガリー大使館でのインターンシップが決定したことも紹介されました。

そして最後に、今回の御礼と今後の一層の交流強化を祈念して、理事長より、千葉県伝統工芸品に指定されている「上総角風 鯉金」を大使に贈呈して歓迎会を締めくくりました。



ハンガリー料理でのおもてなし

## 城西国際大学創立20周年記念



### 「絵本コンテスト」授与式

日時…2012年2月11日  
場所…学校法人城西国際大学東京紀尾井町キャンパス

2012年2月11日、城西国際大学創立20周年記念 空飛ぶクジラ大賞全国高等学校「絵本コンテスト」第1回授与式が、東京紀尾井町キャンパスにて行われました。

本コンテストは、全国の高校生を対象に絵本の新たな可能性を開くことを目的に実施さ

れたものです。絵本は、子どものみならず福祉総合学部が対象とする高齢者や障がいをもった子ども・大人などさまざまな人々に力や癒しを与えるものです。本コンテストでは、製本されたものだけではなく、パソコン・コンピュータを用いて製作されたものや



大賞受賞作『泣いている君へ』



理事長より表彰状を受ける大賞受賞者の櫻井穂友さん

からくり絵本など広く絵本の可能性を追求して多彩な部門を設定しています。また、国際大学にふさわしくインターナショナル部門を設けて海外にも作品応募を呼びかけ、中国、韓国からも多数作品が集まりました。

第1回目となる今回の授与式には、全国から集まった各賞受賞者やその家族、審査員のひとりをつとめられた日本サッカー協会の川



出席者による記念撮影

淵三郎名誉会長と学内審査員等が出席して盛大に行われました。

授与式に際し、水田宗子理事長は「今回のコンテストは福祉総合学部のみならず、メディア学部、国際人文学部など、大学全体で総合的に支援・推進してきました。このコンテストにより、国内・海外で今後絵本の世界がますます広がっていくことを期待しています」とあいさつしました。

続いて、磯部福祉総合学部長より優秀賞、奨励賞、フリー部門賞、努力賞、アイデア賞の各賞受賞者に対し、賞状が授与されました。また、インターナショナル部門賞を受賞した中国・天津外国語大学の方玉玲（ホウ・ギョクレイ）さんの音声による流暢な日本語での受賞メッセージが披露されました。

そして、栄えある空飛ぶクジラ大賞を受賞した櫻井穂友さん（群馬県共愛学園高等学

校)に水田理事長より賞状と記念品、盾が授与されました。

大賞受賞作「泣いている君へ」は、思春期の対人関係における心の機微が色使いとなつて反映されている作品で、言葉と言葉の間に作者が伝えたい思い、意味が十分に含まれ、余韻が感じられます。人と人との間に行き交う息づかいが感じられる繊細で美しい作品で、全審査員一致で大賞に推挙されました。

審査員を代表して、川淵三郎名誉会長は「従来の絵本の枠を超え、新たな世界を創っていく可能性を強く感じた」と講評し、審査員で詩人・絵本作家のアーサー・ビナード氏からは、大賞受賞作品に対し「想像以上に優れた作品で、二人の繊細な心の動きを実にうまく描写している。作者の今後の絵本作家としての成長が大いに楽しみだ」とのコメントがありました。

また、授与式の中で福祉総合学部の活動事例紹介として、福祉総合学科 子ども福祉コースの学生によって行われた「インターナショナル子どもクリスマスパーティー」での幼稚園児を対象にした大きな手作り絵本の読み聞かせの報告もありました。

この空飛ぶクジラ大賞全国高等学校「絵本コンテスト」が今後さらに充実したものになり、世界中から多くの優れた作品が集まることが大いに期待されます。

●空飛ぶクジラ大賞全国高等学校「絵本コンテスト」受賞者一覧

番号	賞名	学校名	氏名	作品名
1	空飛ぶクジラ大賞	共愛学園高校	櫻井毬友	泣いている君へ
2	優秀賞	千葉県立富里高校	内村さゆり	monster
3	優秀賞	盆唐大真高校(韓国)	イ・スンヨン (Lee Seung Yean)	亡霊になったナナとモモ
4	奨励賞	千葉学芸高校	鈴木ひかる	おひさまのかけら
5	フリー部門賞	愛知県立鳴海高校	星野愛恵	幸せの……
6	テーマ部門賞	沖学園高校	吉田向日葵	ままのて
7	努力賞	沖学園高校	小笠原雪乃	スターライト
8	インターナショナル部門賞	天津外国語大学	ホウ・ギョクレイ (方玉玲)	幸せは手元に
9	努力賞	天津外国語大学	カン・シビ (韓志美)	会う
10	努力賞	天津外国語大学	チョウ・ロ (趙路)	世界一の素晴らしい景色
11	努力賞	天津外国語大学	ア・イボル (阿依宝力)	遠くからのお客様
12	努力賞	天津外国語大学	オウ・テンネン (王天然)	イチハツの恋
13	努力賞	天津外国語大学	キン・スイ (金帥)	一人のロマンチック
14	アイデア賞	城西国際大学	中嶋凱	はるう~
15	アイデア賞	城西国際大学	湯本一将	ダケドキョウハ
16	アイデア賞	城西国際大学	太田美可子	わたしのきもち

魯迅美術学院美術館と学術交流協定締結

日時…2011年10月22日  
場所…魯迅美術学院美術館、中華人民共和国



水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学瀋陽訪問団一行は、2011年10月22日

に魯迅美術学院美術館を訪問し、協定を締結しました。

魯迅美術学院は1938年に設立された、中国を代表する美術学院の一つで、中国画学科、版画学科、油絵学科、彫刻学科など11の学科を有しています。

最初に訪問団は美術学院およびキャンパス内にある美術館を見学し、及雲輝館長らのご案内により、特別ギャラリーを含めた門外不出の貴重な作品の数々についての説明を受けました。その後行われた調印式には、学校法人城西大学からは水田宗子理事



水田理事長と及雲輝館長

長、村井隆顧問らが参席し、魯迅美術館からは及館長、李先生らが参席し、今後の教員・学生交流等に関する協定を締結しました。また、及館長をはじめ、魯迅美術館の先生方と学芸員の育成をはじめとしたさまざまな教育交流の可能性について意見交換も行われました。

今回の協定締結による今後の両学の活発な教育交流が期待されます。



魯迅美術館を見学

遼寧大学と学術交流協定締結

日時…2011年10月24日  
場所…遼寧大学、中華人民共和国



水田宗子理事長を団長とする学校法人城西

西大学瀋陽訪問団一行は、2011年10月





水田理事長と黄泰岩学長

24日午前には遼寧大学を訪問し、学術交流協定を締結しました。調印式には学校法人城西大学からは水田宗子理事長、村井隆顧問らが参席し、遼寧大学からは黄泰岩学長、徐平副学長らが参席しました。水田理事長は調印式のあいさつで「貴大学は瀋陽市で最大規模の大学として多様な学部構成と革新的な国際教育を展開されており、城西大学、城西国際大学との多面的な学術交流の可能性は極めて大きいと考えています。両大学の先生、学生が研究、学びを通じ交流が深まることを期待しています」と述べました。このあと水田理事長と黄学長が、両大学の学術交流についての協定書に調印しました。



遼寧大学

ついでには東北地区の他大学から聞いておりました。素晴らしい大学と学術交流協定が結ばれたことを大変うれしく思います。城西大学・城西国際大学との学術交流を盛んなものとし、多くの成果を挙げていきたいと思っております」とあいさつしました。

遼寧大学は、1948年に創立された学生数は2万7千人の国立大学で、中国の国家重点大学の一つであり、遼寧省でも最高クラスの大学として知られています。国際経済学院、经济管理學院、工商管理學院など25の学部で構成された総合大学で、日本語科も設置されており、日本からも多くの学生が留学しています。

今回の協定締結により、両大学間の学生の交換留学や大学院生の交流に加え、社会保険、社会福祉、物流分野等における共同研究が進むことが大いに期待されます。



学術交流協定調印式

水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学瀋陽訪問団一行は、2011年10月24日の午後、瀋陽師範大学を訪問し学術交流協定を締結しました。瀋陽師範大学は1951年に創立され今年でちょうど60周年目を迎えた国立大学で、哲学、経済学、法学、教育学、文学、理学、工学、管理学の8つの学部からなる総合大学です。調印式には学校法人城西大学からは水田宗子理事長、村井隆顧問らが参席し、瀋陽師範大学からは于文明書記、林群学長らが参席しました。

会見の席では、本学と関連のある教員養成やジェンダー研究所の交流、ジェンダー関係のシンポジウム開催、高齢社会を見据えた新しい福祉ビジネスモデルのあり方や共同研究



遼寧古生物博物館を見学

や連携などについて、両大学で検討して進めていくことが確認されるなど、大変有意義で活発な意見交換がなされました。

その後、大学図書館と遼寧古生物博物館を案内していただきましたが、古生物博物館では、化石研究者として世界的に著名な孫革館長が化石標本等の展示物を自ら案内、解説してくださいました。壮大なストーリー仕立ての展示や、化石や考古学の本場の遼寧省ならではの貴重な化石標本の数々は訪問団を圧倒するほどの内容でした。同じく美術館を有し、化石博物館の開設も計画している学校法人城西大学にとって、この点においても大いに参考となる有意義な訪問となりました。



学術交流協定

## 瀋陽師範大学と学術交流協定締結

日時…2011年10月24日  
場所…瀋陽師範大学

## 東北大学訪問

日時…2011年10月25日  
場所…東北大学、中華人民共和国



水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学瀋陽訪問団一行は、2011年10月25日東北大学を訪問しました。

東北大学は1923年に設立された国立大学で、中国の国家重点大学に指定されています。本学と東北大学は2010年8月に学術交流協定を締結しており、学校法人城西大学と東北大学と大連理工大学・大連外国語大学の中国3大学と連携した博士課程である日中連携大学院を開設するなど、活発に学術交流を行なっています。

訪問団は広大なキャンパスや施設の見学を行った後、副校長の姜茂発先生らと会見し、これまでの日中連携大学院の活発な学術交流の御礼と今後のさらなる充実、来年の国際シンポジウムの共同開催、キャンパスアジア申請の再検討、社会保障・社会福祉・物流分野・メディア分野に関する共同研究について積極的に意見交換を行いました。

今後の両学のさらなる教育交流の発展が期待されます。



副校長 姜茂発先生と会見

## 瀋陽農業大学訪問

日時…2011年10月26日  
場所…瀋陽農業大学、中華人民共和国



水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学瀋陽訪問団一行は、2011年10月26日瀋陽農業大学を訪問しました。

瀋陽農業大学は1952年に設立され、中国の農業科学技術の人材育成と科学研究の重要な拠点として知られています。

訪問団は、遅維意党書記や張玉龍学長らをはじめとする瀋陽農業大学の方々から温かい歓迎を受け、親しい雰囲気の中で両大学の相互理解と今後の学術交流に向けた意見交換の場が持たれました。瀋陽農業大学の間では、特に城西国際大学の環境社会学部や経営情報学部と接点・共通点が多く、学生交流はもとより農業政策、高齢化社会に貢献できる人材育成、園芸・農作物の物流、社会保障問題、トレーサビリティ問題などについて積極的な意見交換が行われ、これらの分野において今後も両学間で前向きに話しあっていくことを相互に確認しました。



意見交換の場であいさつする水田理事長

## 中国医科大学訪問

日時…2011年10月26日  
場所…中国医科大学、中華人民共和国



水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学瀋陽訪問団一行は、2011年10月26日中国医科大学を訪問しました。

まず、水田理事長が党書記の戴先生と会見し、両大学の紹介をしてその歴史や今後の発展を理解しました。その後一行は中国医科大学附属盛京病院を見学しました。1883年に創立されたこの病院は4368床を有しており、年間外来患者数が260万人、年間入院患者数が12万人を超える中国東北地域において最大の総合病院です。病院の医師、看護師は、中国語以外に英語はもちろんのこと、韓国語・日本語・スペイン語のいずれかを話す人が多く、国際性の高さに感銘しました。

郭錫斌副院長は、潘伯臣中国医科大学

際交流センター長、看護部長、姚品院長室副室長とともに本学訪問団と懇談をし、郭錫斌副院長は水田理事長に盛京病院の概要と先端医療への取り組みを紹介しました。

盛京病院の見学後、訪問団一行は中国医科大学趙群学長を敬訪問し、水田理事長と趙学長の会見が行われました。会見には潘伯臣中国医科大学国際交流センター長、魏敏杰薬学院長、李小寒看護学院院长らが同席しました。趙学長は歓迎のあいさつの中で「中国医科大学は学校法人城西大学と一緒に薬学、地域医療福祉、医療ツーリズム、国際看護人材育成などの分野において共同研究・共同教育を進めていきたい」と述べました。水田理事長も、中国医科大学との交流を深め、医療福祉分野をはじめ環境・介護・薬剤・語学分野でのハ





中国医科大学で趙学長と会見



載書記とのミーティング




中国医科大学



大学附属盛京病院を訪問

イレベル人材の養成、共同研究に取り組んでいくことを提案しました。また、日中双方に関わる医療や福祉、看護、介護、高齢化等についての問題点や課題に関する意見交換が行われました。地域医療に必要な人材育成を巡る意見交換の中で、水田理事長が2012年4月に開学する城西国際大学看護学部の学

生海外実習への受け入れ協力をお願いしたところ、趙学長から快諾いただきました。最後に趙学長から、できるだけ早い機会に城西大学をお訪ねしたいとの発言があり、訪問した一行全員から笑顔と拍手が送られました。今後の両学の学術交流協定の締結とそれによる両学の活発な交流が期待されます。



## UCLAと学術交流協定締結


日時：2011年10月11日

2011年10月11日、学校法人城西大学は米国のUCLA (University of California, Los Angeles: カリフォルニア大学ロサンゼルス校) Terasaki Center for Japanese Studies と学術交流協定を締結しました。

この協定は、両校の交流を活発にし、学術交流を深めることを目的に締結されたもので、今後両大学では教育や研究、大学提携といった専門分野における教職員の交流、大学院生や学部生の交換留学、学術的な情報や資料の共有等のさまざまな共同プログラムの構築に向けて取り組んでいきます。

UCLAは、カリフォルニア州ロサンゼルス市に本部を置く州立大学で、1919年に設立され、カリフォルニア州の大学で学生数が最も多い総合大学として広く知られています。今回学術交流協定を結んだUCLA Center for Japanese Studies (UCLA日本研究センター) は、日本学研究において世界をリードする存在であり、1991年の設立以来、芸術文化、歴史、社会、政治分野などにおける日本学研究の成果を世に発信し続け、米国における日米関係の理解を深める役目を果たしてきました。そして2005年にはポール&ヒサコ寺崎夫妻からの新たな寄付を受け、UCLA Paul I. and Hisako Terasaki Center for Japanese Studies とその名を改め、今日に至っています。

本学はすでにカリフォルニア大リバーサイド校をはじめ、米国においても多くの大学と学術交流協定を結んでおり、各種留学やサマーセミナー、語学研修、インターンシップ等を活発に推進しています。今回の協定により、今後のこれらの国際教育プログラムのさらなる充実が期待されます。



## マレーシアのトゥンク・アブドゥル・ラーマン大学と学術交流協定締結

日時：2011年12月12日  
場所：トゥンク・アブドゥル・ラーマン大学、マレーシア

学校法人城西大学は、2011年12月12日、マレーシアのトゥンク・アブドゥル・ラーマン大学 (Tunku Abdul Rahman University) と学術交流協定を締結しました。

本学より理事長代理として、法人本部並河克彦経営企画室長、城西大学薬学部杉林堅次学部長が同大学を訪問し、Datu' Dr. Chuah Huan Teik 学長や幹部教員の方々と面談し、討議・意見交換の後、今後の本格交流を期して学術協定を締結したものです。

同大学は、1969年からマレーシア華人協会により経営されていたカレッジを母体と

2011年10月11日、学校法人城西大学は米国のUCLA (University of California, Los Angeles: カリフォルニア大学ロサンゼルス校) Terasaki Center for Japanese Studies と学術交流協定を締結しました。

この協定は、両校の交流を活発にし、学術交流を深めることを目的に締結されたもので、今後両大学では教育や研究、大学提携といった専門分野における教職員の交流、大学院生や学部生の交換留学、学術的な情報や資料の共有等のさまざまな共同プログラムの構築に向けて取り組んでいきます。

UCLAは、カリフォルニア州ロサンゼルス市に本部を置く州立大学で、1919年に設立され、カリフォルニア州の大学で学生数が最も多い総合大学として広く知られています。今回学術交流協定を結んだUCLA Center for Japanese Studies (UCLA日本研究センター) は、日本学研究において世界をリードする存在であり、1991年の設立以来、芸術文化、歴史、社会、政治分野などにおける日本学研究の成果を世に発信し続け、米国における日米関係の理解を深める役目を果たしてきました。そして2005年にはポール&ヒサコ寺崎夫妻からの新たな寄付を受け、UCLA Paul I. and Hisako Terasaki Center for Japanese Studies とその名を改め、今日に至っています。

本学はすでにカリフォルニア大リバーサイド校をはじめ、米国においても多くの大学と学術交流協定を結んでおり、各種留学やサマーセミナー、語学研修、インターンシップ等を活発に推進しています。今回の協定により、今後のこれらの国際教育プログラムのさらなる充実が期待されます。

して、国家教育力強化の観点から教育大臣の要請により2002年に総合大学化した華僑系私立大学です。学生数は1万9千人で、社会科学系、メディア、工学、理学、環境、薬学健康などの学部を有し、本学とも多面的な交流が考えられます。

本学はかねてよりマレーシアの大学交流をマレーシア大使館、マレーシア政府観光局とも検討を重ねてきましたが、本年11月に同国ン・イエン・イエン 観光大臣 (Dato' Sri Dr.



交流締結後の記念写真

Ng Yen Yen)の本学東京紀尾井町キャンパス訪問の機会をいただき、同大学へのご紹介と今回の交流開始につながりました。今回の訪問では、同大学以外にも最大の国立大学であるマラ工科大学や、日本との関係が深いマレーシア日本国際工科院も訪問し、高等教育の英語化が進んでいる同国ならではの話し合いが持たれました。



キャンパス外観

## 台湾 逢甲大学と学術交流協定締結

日時：2011年12月20日



2011年12月20日、学校法人城西大学は台湾の逢甲大学と学術交流協定を締結しました。この締結により、今後両大学間における

交換学生や教員の派遣、学術資料刊行物の交換など、教育および研究の諸分野における幅広い学術交流が行われることが期待されます。

今回の協定は、学校法人城西大学代表团が同大を訪問して、張保隆学長他と学術・教育交流に関して活発な討議・意見交換を行った後、今後の本格交流を期して締結されたものです。

逢甲大学は1961年に創立された実業系

の私立総合大学で、工学、商学、理学、人文社会学、情報電気学、建築学、経営管理学、進修社会学院文学院の8学部を有し、台湾でも最も有望な総合大学の一つとして知られています。

## 中国医科大学と学術交流協定締結

日時：2011年12月29日



2011年12月29日、学校法人城西大学は中国医科大学と学術交流協定を締結しました。この締結により、今後両大学間における教育および研究の諸分野における学術交流や、教員、研究者および学生の交流が行われることが期待されます。

また、2012年4月に開学する城西国際大学看護学部の学生海外実習への受け入れについても協議中です。

今回の協定は、2011年10月に水田宗子

理事長を団長とする学校法人城西大学瀋陽訪問一行が同大を訪問したことが契機となつて、締結に至ったものです。その際の水田理事長と趙群学長の会見でも、今後の両学の交流を深め、医療福祉分野をはじめ環境・介護・薬剤・語学分野でのハイレベル人材の養成、共同研究に取り組んでいくことの提案がなされ、日中双方に関わる医療や福祉、看護、介護、高齢化等についての問題点や課題に関する意見交換も行われました。

## 名誉博士記

### 城西大学より柳振万先生(大連外国語学院 党委書記)へ 名誉博士記授与

日時：2011年11月15日

場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

名誉博士記

2011年11月15日東京紀尾井町キャンパスにおいて、中国・大連外国語学院の党委員

会書記である柳振万先生に、水田宗子理事長より城西大学名誉博士記が授与されました。



今回の名誉博士記授与は、柳先生が永年にわたって日本・中国間の関係発展および相互理解の促進にご尽力され、本学と中国との学術交流に多大な貢献をされたことにより実現したものです。

柳先生は長い間観光分野の第一線でご活躍をされ、大連を「浪漫之都」という観光ブランドとして登録し、世界都市観光の最先端に立ってブランド化を推進されました。その素晴らしいリーダーシップの結果として、大連を中国最優秀観光都市トップ3の一つとして築き上げることに成功され、大連は国連世界観光機構（WTO）より非常に高い評価を得ました。

本学と大連外国語学院は2008年3月に学術交流協定を締結し、大連外国語学院から毎年数多くの学生が城西大学・城西国際大学に留学するなど、両学の交流は着実に拡大発



名誉博士記を授与

展しています。

また、観光学部を持つ両大学が合同で、観光に関する用語を幅広く収録した「日中観光用語辞典」を作成することも決まっております。2013年の出版に向けて作業が鋭意進行中です。

授与後、柳先生は「我々両大学は、これまで素晴らしい兄弟として緊密に交流してきました。今回の名誉博士記を授与することができたのは、私個人への評価のみならず大連外国語学院への評価でもあると思っております。大変名誉なこと、心から感謝の意を表します。今日から、城西大学は我が母校になり、私も城西大学の学友となります」とごあいさつされました。

また、両学の交流発展の証として、本学から大連外国語学院に桜の木が計200本贈呈されることが決定し、旅順に作られた



授与式の出席者一同

新キャンパスの池の周りに植えられる予定です。今後、春が訪れる度にきれいな桜の花

を咲かせ、キャンパスを美しく彩ることでしよう。

## 創立20周年記念事業

### 創立20周年記念「創立の石碑」建立除幕式

日時：2011年11月5日  
場所：城西国際大学

創立20周年記念事業

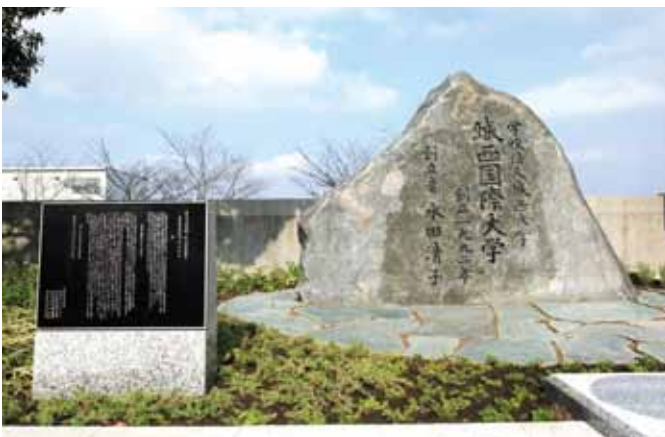
2011年11月5日、城西国際大学の創立20周年を記念して「創立の石碑建立除幕式」が、水田宗子理事長をはじめとする学校関係者、同窓会・父母後援会関係者など約50名が出席して執り行われました。

この石碑は、城西国際大学が今年で創立20周年を迎えるにあたり、創立者である水田清子名譽理事長の業績をたたえ、名譽理事長が大学にかけられた夢をあらためて受け止め、今後の大学発展に寄与したいとの想いで同窓生一同により創立の石碑と顕彰の銘板の寄贈が提案され、父母後援会、城西大学の同窓会、父母後援会からも賛同をいただき、建立に至ったものです。

石碑の「筑波石」は、正門脇にそびえ立つ大きな楠の木の下に建立され、創立者水田清子名譽理事長の業績を今後に伝えるべく、同窓生の感謝の気持ちを込め銘板も添えられました。

除幕式に続いて行われた第20回J I U フェスティバルの開祭式において、水田理事長は「同窓会のご提案と、城西大学の同窓会や両大学の父母後援会などのお力により石碑が建立され、さきほど無事除幕式を終えることができました。石碑は、これから何百年も

の間、この地で入学生や世界中からの留学生を末永く応援し、見守ってくれることでしょう。学園祭の初日に除幕式ができたことは、感無量です」と挨拶しました。



千葉東金キャンパス正門脇の「創立の石碑」

# 講演会・シンポジウム

## 大学院センター開設記念講演会開催

日時…2011年11月25日  
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

講演会  
シンポジウム

学校法人城西大学は、2011年11月25日に大学院センター開設記念講演会を開催しま



講演する小野元之大学院センター所長



講演する日本学術振興会理事長の安西祐一郎氏

した。

大学院センターは、日本・アジアおよび世界でリーダーシップを発揮できる人材育成教育を目指し、城西大学（4研究科8専攻）と城西国際大学（5研究科9専攻）の大学院での教育・研究をより一層充実させるために開設されたものです。

講演に先立ち、水田宗子理事長が「日本と世界の人材育成に学校法人城西大学として貢献できる教育プログラムを推進するため、7月設立のイノベーションセンターに続いて、このたび大学院センターを開設しました。両大学院がお互いの力を出し合い、海外の大学とも協力しながら、国際社会でリーダーシップを発揮できる高度な能力を持った専門家を1人で



懇親会であいさつする小松親次郎 文部科学省高等教育局私学部長

も多く育てていきたい」とあいさつしました。

最初に、独立行政法人日本学術振興会理事長の安西祐一郎氏が「グローバル社会における大学院の役割」と題した講演を行いました。安西氏は、急速に進むグローバル社会の中で今後必要とされるのは、世界（グローバル）と地域（ローカル）の両方に通じ、専門家としてどこでも活躍できる人材であると、そのような人材を育成するための大学院の役割、特に私立大学の大学院と大学院生の方についてお話をされました。

引き続き、小野元之大学院センター所長（前日本学術振興会理事長）が「21世紀における大学院のあり方」について講演しまし



北山禎介 三井住友銀行取締役会長

た。小野所長は、日本の再生のためにも特に大学院改革が必要であると提言し、そのためのあらたな外部資金獲得の重要性を指摘した上で、城西大学大学院センターの推進方針として「両大学の強みを活かした連携」「国際的な教育の質の保証」「海外大学との連携と留学生強化」等を表明しました。

講演会が行われた地下ホールには、文部科学省や企業・大学関係者、学生など約200名が来場し、熱心に講演を聞いていました。また講演会終了後に行われたレセプションでは、グローバル時代の大学院教育のあり方や今後の人材育成等に関しての積極的な意見交換や交流が行われました。



小林誠 日本学術振興会・学術システム研究センター所長 (2008年ノーベル物理学賞 受賞)

## 大学院国際アドミニストレーション

### 「ホテル経営イノベーション」開催

日時…2012年1月25日  
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

講演会  
シンポジウム

2012年1月25日、東京紀尾井町キャンパス4号棟5階で「ホテル経営イノベーション公開講座」が開催されました。この講座は

城西国際大学大学院国際アドミニストレーション専攻の社会人対象ディプロマプログラム（MIELプログラム）として行われまし



講演会  
シンポジウム

## 第2回 日中経済経営フォーラム JOSA I 開催

日時…2012年2月15日  
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2012年2月15日、東京紀尾井町キャン

パス3階301教室で「第2回日中経済経営



鈴木氏の講演



ケビン氏の講演

た。また、同専攻客員教授で『THE FUN』代表の梅原一剛先生（ザ・キャピトルホテル東急顧問）が行っているグローバルホテル人材育成プログラムとの共同開催となりました。

講師に、モルガン・スタンレーキャピタル JAPAN 専務取締役のケビン・ブルーマー氏と、有限責任監査法人トーマツ・IFRSアドバイザーグループ パートナー公認会計士の鈴木登樹氏を迎え、講演が行われました。

ホテルにおける経理責任者のあり方や、国際財務報告基準導入の動向等について説明されました。さらにホテル業界の現状と海外を中心とした会計システム（ユニホームシステム）の活用についても言及があり、参加した関係者は熱心に受講していました。

講演会終了後のディスカッションでは、参加者全31名による白熱した意見交換が行われ、学生と社会人それぞれの立場から発言があり、充実した公開講座となりました。



桜井久美先生



講演会風景

フォーラム JOSA I」が開催されました。この講演会は、2012年5月から中国・大連で行われる「JOSA I グローバル女性人材育成プログラム（JWEL※）」に連し、「グローバル女性が社会を変える」というテーマで行われました。

講師3名で構成された講演会には、企業経営者および人事担当者、役所関係者等各界で活躍する女性が多く来場されました。

また、本学で行っている女性リーダー育成奨励生（水田宗子奨学金）の学生も参加し、このテーマに対する関心の高さを物語っていました。

## ●小野元之

学校法人城西大学大学院センター所長  
（前日本学術振興会理事長、  
元文部科学事務次官）

## ●大羽りん

株式会社シー・コミュニケーションズ  
代表取締役  
講演テーマ

「女性から見た中国ビジネス」  
中国語翻訳・通訳の会社経営の経験から、日本人女性が中国でどのような点に注意すべきかについて実例を織り交ぜて説明されまし

講演テーマ  
「女性の社会進出について」  
主に日本国内における現状問題の分析や、文部科学省時代に推進した政策の紹介等を交え、女性の社会進出のための提案が行われました。そこでは、女性の労働力や共働き世帯に加えニートや晩婚化等さまざまな問題に焦点を合わせた政策提言や構想が語られました。

た。また、日本と中国の文化比較を背景に、中国で働く心構えとコミュニケーション知識の重要性が強く語られました。

●桜井久美先生

衣装作家／城西国際大学メディア学部客員教授  
講演テーマ

「グローバル社会における女性の仕事」

世界で働くことの問題点や仕事に対する情熱等、フランスオペラ座でのデザイン修業などの経験をもとに講演しました。特に衣装制作の過程においてさまざまな国籍の人たちと共同で働いた経験から、国籍も文化も違う環境下で働くことの難しさと、さまざまな文化

の価値観を得られるという利点について説明されました。

多様な経歴を持つ3名による講演には、さまざまな問題が混在する中でいかにコミュニケーションを大事にし、自身の目的に強い情熱を燃やすことを重要視すべきという考え方が共通していました。およそ2時間半の講演会では、50名を超す来場者の熱心に耳を傾けている姿が見られました。

※このプログラムの英語名「JEWEL」は次の英語の文字からとっています。

**Josai Executive Program for Women's Empowerment and Leadership**

美術活動

城西大学水田美術館開館

日時：2011年12月9日  
場所：城西大学

美術活動

学校法人城西大学創立45周年記念事業として建設を進めてきた城西大学水田美術館が、2011年12月9日に開館しました。

開館に先立つ神事後、美術館入り口にて水田宗子理事長をはじめとする学校関係者、設計・建設、行政関係者などによるテープカットが行われ、12時に華々しくオープンしました。

オープン後は、招待された約170名の関係者やお客様、TV局や新聞社などのマスコミができたばかりの館内を観覧されましたが、それ以外にも近隣の方々や学生など合計

約650名の方が訪れ、各ギャラリーの展示物を熱心に見学されていました。

地上2階建て、延べ床面積670㎡におよぶ館内にある3つのギャラリーでは、本学が所蔵する作品群の中から、オープンを記念して当日限りの水田コレクション浮世絵名品展や、近代日本風景画家として著名な橋本博英展、城西大学の歴史と歩みを振り返る写真パネル展が行われている他、元内閣総理大臣で現在は陶芸家としても有名な細川護熙氏の作品も展示されています。



美術館外観

引き続き、午後には開館祝賀会が行われ、水田宗子理事長が「創立者がこよなく愛した浮世絵のコレクションを中心にして昭和54年（1979年）に城西大学水田美術館は創設されました。そして、このたび創立45周年を記念して装いも新たに開館することができました。独立した建物としての美術館は本学としても初めてであり、今後さまざまな展覧会や企画を行って城西大学の教育・研究に貢献していくとともに、地域の皆様に愛され喜ばれる美術館を目指して、大事に育てていきたい」とあいさつしました。

続いて伊利坂戸市長、井上毛呂山町長等のご来賓ごあいさつの後、今回設計施工を担当した studio SUMO のスニール・ポールドさんと、野口大林組副社長からごあいさつをいただきました。

また今回は、先日にも本学と学術交流協定を締結した魯迅美術学院の油絵学部教授であ



来場者で賑わうギャラリー1「水田コレクション浮世絵名品展」



エントランススペースに飾られた細川護熙氏の作品



り、中国を代表する「国家の画家30人」として認定されている王希奇先生もおいでになりました。なお、王先生は現在満州からの引き揚げをテーマに創作に取り組んでおり、本学でも来年美術館で作品展ができるよう準備・支援していきます。



来場者で賑わうギャラリー2「橋本博英展」

新美術館では、今後水田コレクションの公開とともに、大学の紹介やさまざまな企画展、大学のある坂戸や埼玉県など地域ゆかりの文化の紹介など、地域に根ざしたさまざまな情報発信の場としての活動が大いに期待されます。



ギャラリー3の様子

出版活動

## 出版活動

## Review of Japanese Culture and Society

## 第23号刊行

23号が刊行されました。  
Review of Japanese Culture and Society

今号は「大阪万博と日本美術」をテーマに、在外研究者による論考およびこのテーマ

に関わる日本語論文の英語翻訳文などを掲載しております。

巻頭カラーページがこれまでより増えるなど、さらに魅力的な誌面となりました。

出版活動

## U.S.-Japan Women's Journal 第41号刊行

今号は江戸、戦前、戦後、そして現代における女性の主体性の歴史的な変化と継続性の

考察を掲載しております。  
※ U.S.-JAPAN WOMEN'S JOURNAL は日

## CONTENTS

- Midori Yoshimoto Acknowledgements  
Notes to the Reader
- Midori Yoshimoto Expo' 70 and Japanese Art: Dissonant Voices  
An Introduction and Commentary  
Japan World Exposition-Reconsidering Expo Art (2007)  
(translated by Mika Yoshitake)
- Nakai Yasuyuki The 1970 Osaka Expo and/as Science Fiction  
Expo' 70 as the Ruins of Culture (1970)  
(translated by Ignacio Adriasola)
- William O. Gardner Expo' 70: The Model City of an Information Society  
Recalling The Days of Expo Art (?) (2001)  
(translated by Machida Gen)
- Haryū Ichirō To Put On A Big Face: The Globalist Stance of Okamoto  
Tarō's Tower of the Sun for the Japan World Exposition  
Ancient Blood, Contemporary Blood (1971)  
(translated by Reiko Tomii)
- Hyunjung Cho Textiles Pavilion: An Anomaly and Critique of Expo' 70  
■ Isozaki Arata Criticism of Expo' 70 in Print: Journals Ken,  
Bijutsu techō, and Dezain hihyō
- Bert Winther-Tamaki
- Okamoto Tarō

## Artists' Pages:

- Tōmatsu Shōmei Untitled (1970)
- Akasegawa Genpei A Redevelopment Proposal for the Expo' 70 Site (1970)  
(translated by Reiko Tomii)
- Matsuzawa Yutaka Matter Must Vanish: A Proposal for Redevelopment of  
the Former Expo Site (1970) (translated by Reiko Tomii)
- KuroDalaiJee Performance Art and/as Activism:  
Expo' 70 Destruction Joint-Struggle Group  
"World Without Boundaries"?
- Hiroko Ikegami E.A.T. and the Pepsi Pavilion at Expo' 70, Osaka  
Toward Tokyo Biennale 1970:  
Shapes of the "International" in the Age of  
International Contemporaneity
- Reiko Tomii

## Fiction:

- Uehara Noboru Our Gang Age (1970)  
(translated by Kyoko Selden and Alisa Freedman)
- Shōji Kaoru Watch Out, Little Red Riding Hood (Chapter One, 1969)  
(translated by Kyoko Selden and Alisa Freedman)

## Bibliography:

- Hyunjung Cho Select Annotated Bibliography of Expo' 70  
On the Contributors

※ Review of Japanese Culture and Society  
は日本人と日本文化をテーマとする英文誌  
で、年に一度城西大学国際学術文化振興セ  
ンター(JICPAS)より刊行していま  
す。

バックナンバー、購入方法などの詳細につ  
いては Web サイトをご覧ください。

(<http://www.josai.jp/jicpas/RJCS/>)



## ●周辺図



## アクセス インフォメーション

- 東京メトロ有楽町線 麹町駅 1番出口より徒歩3分
- 東京メトロ半蔵門線・南北線 永田町駅9a番出口より徒歩5分
- 東京メトロ丸ノ内線・銀座線 赤坂見附駅D出口より徒歩8分
- JR中央線・総武線 四ツ谷駅より徒歩10分



## CONTENTS

## ■ Taeko Shibahara

“The Private League of Nations” : The Pan-Pacific Women’s Conference and Japanese Feminists in 1928  
『私設国際連盟』：—1928年汎太平洋婦人会議と日本人フェミニストについての考察—

## ■ Christina Ghanbarpour

Home Education in Rural Japan: Continuity and Change from Late Edo to the Early Postwar  
農村の女性の家族教育：江戸後期から戦後初期にわたる変化と連続性

## ■ Sharon Kinsella

From Compensating Comfort Women to Compensated Dating  
従軍慰安婦の支援から援助交際へ

## ■ Dalit Bloch

A Room of Their Own: Time, Space, and the Self-Perceptions of Married Couples in Japan  
日本の30代の夫婦の共有する時間、空間、そしてカップルとしての意識

## ■ Barbara E. Thornbury

Young Women / “Bad Girls” in Kirino Natsuo’s Real World  
桐野夏生の「リアルワールド」における若い女性／“不良少女”

米間を中心に他地域を加えたグローバルな視点に立ったジェンダー研究の学術交流、情報交換を目的に、女性、男性、家族、労働、社会問題、文化研究等についての論考を掲載する英文誌です。城西大学国際学術文化振興セ

ンター（JICPAS）が年に2冊刊行しております。  
バックナンバー、購入方法などの詳細についてはWebサイトをご覧ください。  
(<http://www.josai.jp/jicpas/usjw/index.html>)



## 学校法人 城西大学

 城西大学 / 城西短期大学  城西国際大学

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-26 TEL.03(6238)1300

学校法人 城西大学 <http://www.josai.jp/>

城西大学 <http://www.josai.ac.jp/> 城西国際大学 <http://www.jiu.ac.jp/>

## 学校法人 城西大学 国際学術文化振興センター

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-26  
TEL 03(6238)1300 FAX 03(6238)1299